



第3章 望ましい環境像

- 1 将来都市像
- 2 望ましい環境像
- 3 環境の整備目標



1 将来都市像

「第5次総合計画（改定版）*」では、上越市がまちづくりを進める上で大切にしたい「①人を育むまちづくり、まちを育む人づくり」、「②個性と調和、自立と共生によるまちづくり」、「③次世代につなぐ持続可能なまちづくり」の3つを基本理念とし、上越市が目指すまちの将来像を、「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 共生・創造都市 上越」と定めています。

「第2次環境基本計画」は、環境面から第5次総合計画（改定版）の政策目標を達成する役割を担うことから、この将来都市像を目指し、第5次総合計画（改定版）の次の3つの視点で、望ましい環境像と基本目標を設定しました。

(1) 基本政策における政策目標の実現

本計画は、「第5次総合計画（改定版）」の基本政策「4 自然と共生し、安全に安心して暮らせるまち」における政策分野「1 人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり」及び政策分野「4 雪と上手に付き合う暮らしを実現するまちづくり」の政策目標の達成を目指します。

政策分野	政策分野における政策目標
1 人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり	環境学習の推進と併せて、地球環境、自然環境、生活環境それぞれに対する環境負荷が軽減され、人と自然が共生する環境にやさしいまち
4 雪と上手に付き合う暮らしを実現するまちづくり	雪がもたらす障壁を克服しつつ、雪を資源として活用する工夫などを通して、雪と上手に付き合う暮らしが営まれるまち

(2) まちづくり重点戦略との連携

本計画の重点プロジェクトは、「第5次総合計画（改定版）」における「まちづくり重点戦略・重点プロジェクト」としての位置づけを併せ持ち、他分野の取組との連携を図りながら、環境負荷の軽減を推進します。

(3) 土地利用構想との整合

「第5次総合計画（改定版）」における「土地利用構想」は、環境負荷の軽減について多分に配慮しています。この土地利用や都市構造のあり方に関する基本的考えを踏まえつつ、本計画における施策を推進し、効果を高めていきます。

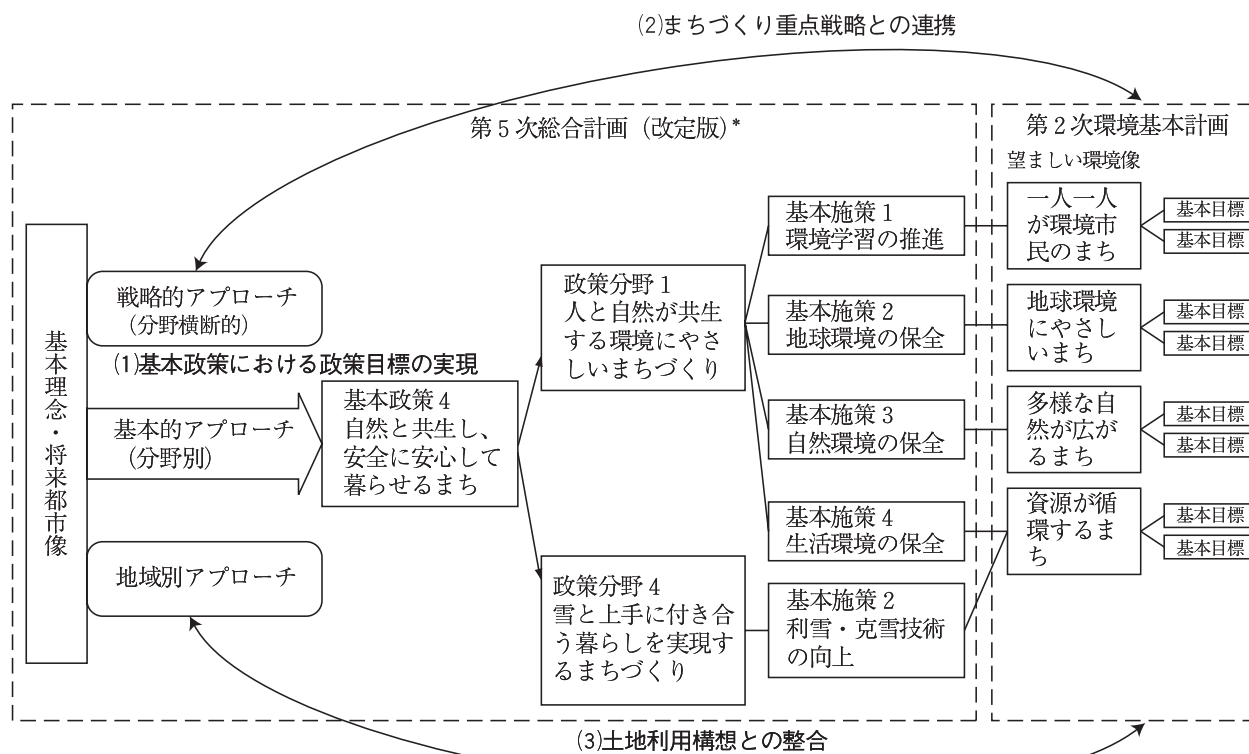


図3-1 「第5次総合計画（改定版）」と環境基本計画の関連図



2 望ましい環境像

本計画では、上越市の将来都市像を環境面から捉え、本計画が対象とする4つの環境の分野ごとに「望ましい環境像」を設定します。また、「望ましい環境像」の実現のために、それぞれの環境像について具体的な基本目標を定めます。

4つの望ましい環境像

- 地球環境：地球環境にやさしいまち
- 自然環境：多様な自然が広がるまち
- 生活環境：資源が循環するまち（ゼロエミッション）
- 環境学習：一人一人が環境市民のまち

(1) 地球環境にやさしいまち【地球環境】

大気中の温室効果ガス*の安定化に寄与するため、資源やエネルギーを効率よく利用するとともに、社会経済のあらゆるシステムが構造的に温室効果ガスの排出の少ない社会へ抜本的に変革するように、市民一人一人の具体的な行動を促す取組を進めます。

〈基本目標〉

- ①省エネルギーの推進
- ②事業者における新エネルギー*導入の促進
- ③家庭におけるCO₂*排出量の削減
- ④エコドライブ*の推進
- ⑤地産地消*の推進

(2) 多様な自然が広がるまち【自然環境】

当市は緑に囲まれ、市民の意識においても豊かな緑のまちと認識されています。この緑を次世代を担う子どもたちに引き継ぐとともに、自然との共生の視点に立った自然環境の保全の必要性が高まっていることから、現存する貴重な自然環境を健全な状態で確保します。

〈基本目標〉

- ①環境影響の軽減
- ②海岸の自然環境の保全
- ③河川・池沼等の自然環境の保全
- ④中山間地域の生物多様性の確保

(3) 資源が循環するまち（ゼロエミッション）【生活環境】

現代の大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動の仕組みを根本から見直し、循環型社会*の構築を目指します。また、人に健康被害を及ぼす公害をなくすとともに、歴史的資源*を活かした快適な都市環境を構築します。

さらに、地域資源である雪を利活用した生活様式の提案により、地域への愛着と誇りを高めます。

〈基本目標〉

- ①事業者における低公害車*の普及促進
- ②光化学スモッグ*の発生抑制
- ③地盤沈下対策の強化
- ④環境保全型農業*の推進
- ⑤ごみの減量
- ⑥海岸のごみ撤去
- ⑦家庭ごみの再利用の推進
- ⑧町家、雁木など歴史的建造物を活かしたまちづくりの推進
- ⑨文化財の保存及び活用の推進
- ⑩雪を利活用した生活様式の提案

(4) 一人一人が環境市民のまち【環境学習】

環境保全の取組は市民一人一人の取組が重要であり、まずは市民が環境の情報に触れ、学び、気づく機会を創出するとともに、活動の機会を十分に確保します。

また、事業者との連携により実効性を高めていきます。

〈基本目標〉

- ①指導者の育成
- ②学習機会の拡大
- ③「上越市の環境」の市民への周知
- ④環境情報の市民への提供
- ⑤市民プロジェクトの推進
- ⑥事業者との連携強化

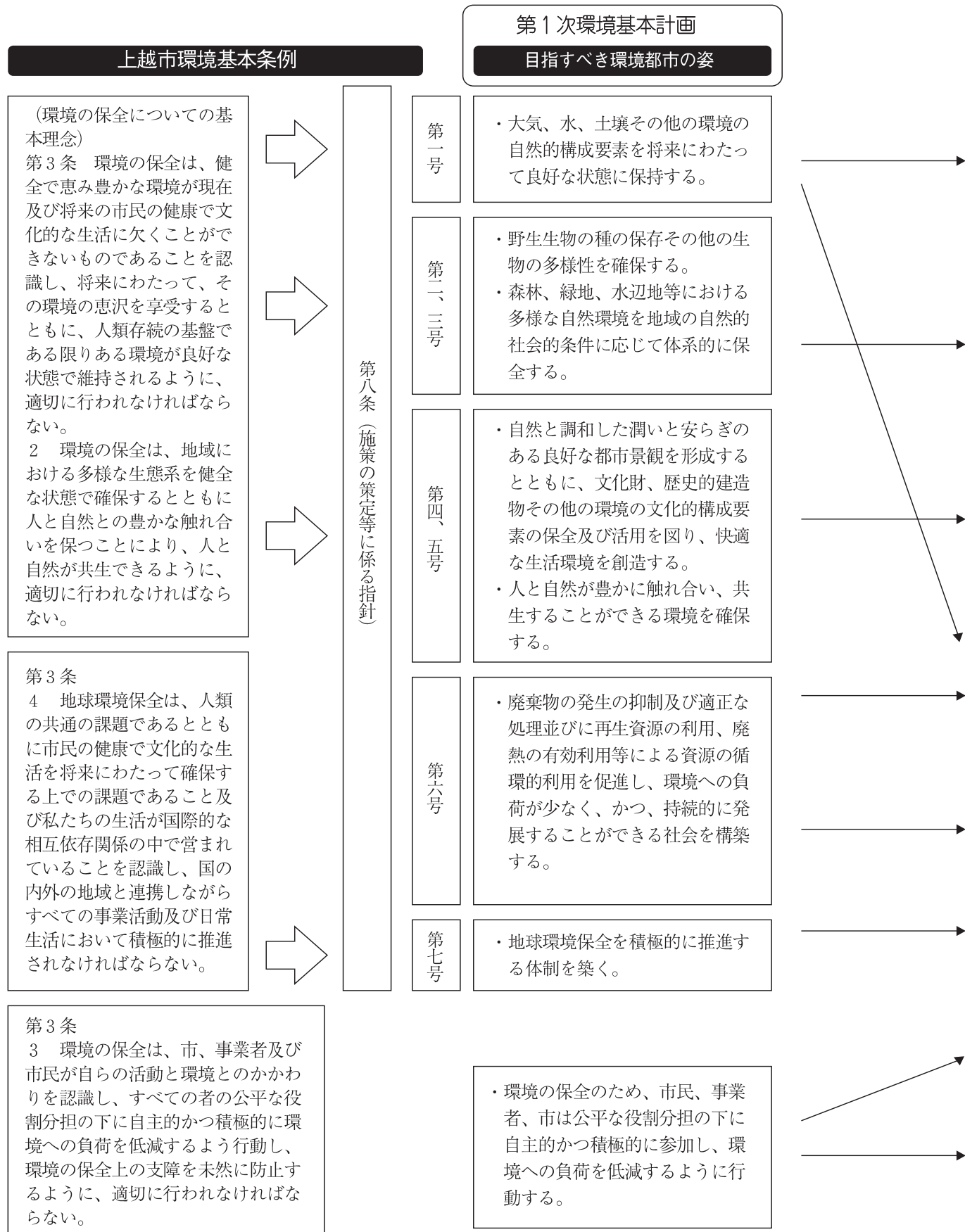
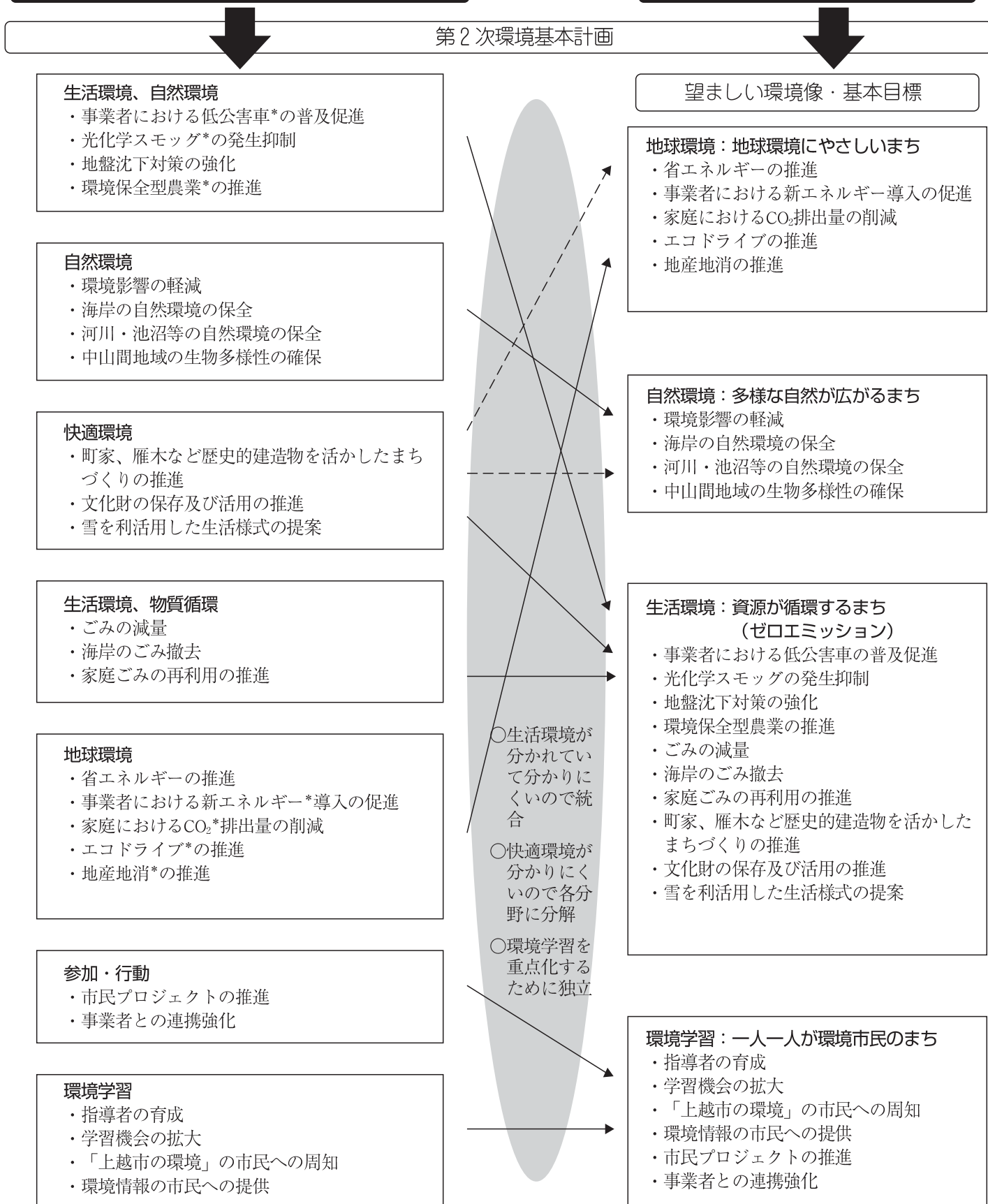


図3-2 望ましい環境像・基本目標

上越市の環境の現状・第1次環境基本計画の成果

第5次総合計画（改定版）*

第2次環境基本計画





3 環境の整備目標

第1次環境基本計画においては、基本目標ごとに指標を設定していました。

第2次環境基本計画においては、望ましい環境像と基本目標ごとに、できるだけ数値化でき、より目標に近い指標を設定します。

【各指標項目の定義や設定の根拠は、資料編「4 環境の整備目標の目指す状態と根拠」に掲載しています。】

(1) 地球環境にやさしいまち【地球環境】

計画期間前半が京都議定書*第1約束期間にあたることから、地球温暖化*対策に集中するため、温室効果ガスの排出量を指標とします。

指標項目	現状値 (H15)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
温室効果ガス排出量	2,862千t- CO ₂	2,109千t- CO ₂	2,094千t- CO ₂

① 省エネルギーの推進

市内の家庭やオフィス等の電気使用量を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市内の電気使用量 (民生部門)	877MWh*	624MWh*	563MWh*

※ 1 MWh=1,000kWh

② 事業者における新エネルギー*導入の促進

情報収集による新エネルギーの導入量を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
事業者における新エネルギーの導入量 (原油換算)	396kℓ* ¹	3,800kℓ	未設定* ²

※1 太陽光発電施設 (30kℓ)、風力発電施設 (357kℓ)、雪氷冷熱エネルギー利用 (9 kℓ)

※2 上越市地域新エネルギービジョンが平成22年度を目標年次としているため

③ 家庭におけるCO₂*排出量の削減

市内の二酸化炭素排出量のうち、家庭からの排出量を指標とします。

指標項目	現状値 (H16)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
民生部門 (家庭) のCO ₂ 排出量	1.37 t-CO ₂ /人	1.07 t-CO ₂ /人	1.01 t-CO ₂ /人

④ エコドライブ*の推進

市民対象のアンケート調査によるエコドライブの実施率を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
エコドライブ実施率	(63.8%) ^{*1}	H20年度* ² 値から5%向上	H20年度* ² 値から10%向上

※1 平成18年度市政モニターアンケートによる数値

※2 平成20年度にアンケート調査を実施し現状を把握する

⑤ 地産地消*の推進

上越市食育推進計画が指標とする、地場産物等を普段の食事に取り入れるようにしている市民の割合と、学校給食における地場産物の使用割合を指標とします。

指標項目		現状値 (H18)	目標値 (H23) ^{※2}	目標値 (H26)
普段の食事に、郷土料理、地場産物や旬の食材を取り入れるようにしている市民の割合		(56%) ^{※1}	70%	未設定 ^{※2}
学校給食において地場産物を使用する割合（食材数ベース）	県内産の割合	21.40%	25%	未設定 ^{※2}
	上越市産の割合	8.30%	10%	未設定 ^{※2}

※1 平成18年度市政モニターアンケートによる数値

※2 食育推進計画が平成23年度を目標年次としているため

(2) 多様な自然が広がるまち【自然環境】

市民対象のアンケート調査による市内の自然環境の豊かさに満足している市民の割合を指標とします。

指標項目	現状値 (H15)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
自然環境の豊かさに満足している市民の割合	(86.7%) ^{※1} (76.7%) ^{※2}	H20年度 ^{※3} 値を維持	H20年度 ^{※3} 値を維持

※1 森や林など山のみどりの豊かさに満足している市民の割合

※2 野鳥、昆虫など生き物の豊かさに満足している市民の割合
(いずれも平成16年度環境市民アンケートによる数値)

※3 平成20年度にアンケート調査を実施し現状を把握する

① 環境影響の軽減

自然環境に影響を与える行為に対する配慮（許可、指導、助言等）の件数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市自然環境保全条例*に基づく許可、届出等により自然環境に配慮された開発行為等の件数	—	平成20年度*実績を上回る	平成20年度*実績を上回る

※平成20年4月及び10月に施行予定

② 海岸の自然環境の保全

定点観測地点における海岸植物の群落*構成種数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
海岸植物の群落構成種数（11箇所平均）	7.1種	7.1種	7.1種

③ 河川・池沼等の自然環境の保全

河川・池沼等の水質汚濁の原因となる生活排水*の処理状況を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
汚水衛生処理率（生活排水処理が適切に処理されている人口割合）	62.70%	71%	80%

④ 中山間地域の生物多様性の確保

中山間地域の生物多様性の確保には、生物の生育環境としての広葉樹林や農地の保全が必要であることから、広葉樹林面積及び中山間地域における農業生産活動を行う集落協定数を指標とします。

指標項目	現状値 (H17)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
広葉樹林面積	26,528ha	26,528ha	26,528ha
中山間地域等直接支払制度に基づく活動を行う集落協定数	182件	186件 (H21)*	—*

※中山間地域等直接支払制度が平成21年度で終了のため

(3) 資源が循環するまち（ゼロエミッション）【生活環境】

上越市一般廃棄物処理基本計画におけるごみの排出量（家庭系及び事業系ごみの合計）を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
ごみの排出量	88,919 t	87,258 t	83,246 t

① 事業者における低公害車*の普及促進

事業者対象のアンケート等によるクリーンエネルギー自動車の導入台数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
事業者におけるクリーンエネルギー自動車（ハイブリッド・天然ガス車）の導入台数	(38台)*	未設定	未設定

※ 天然ガス車のみ

② 光化学スモッグ*の発生抑制

光化学スモッグの原因となる光化学オキシダント*の環境基準*の達成状況を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
光化学オキシダントの1時間値が0.06ppm*を超過した時間の割合（市内観測地点の平均）	2.9%	2.9%	2.5%

③ 地盤沈下対策の強化

地盤沈下の最大沈下量及び沈下量0.5cm以上の面積を指標とします。

指標項目	現状値 (H17*)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
最大沈下量	2.2cm	1 cm以下	
沈下量0.5cm以上の面積 (上越地域)	133km ²	広範囲に渡らない	

※平成16年9月～平成17年9月

④ 環境保全型農業*の推進

市内における減農薬・減化学肥料による水稲栽培面積を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
減農薬・減化学肥料による水稲栽培面積	710ha	2,000ha	3,000ha

⑤ ごみの減量

市民1人当たりの家庭ごみの排出量を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市民1人当たりの家庭ごみ排出量	301kg/人・年	297kg/人・年	291kg/人・年

⑥ 海岸のごみ撤去

市及び市民ボランティア等による海岸ごみの回収量を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
海岸ごみの回収量 (市回収分)	300 t	340 t	420 t

⑦ 家庭ごみの再利用の推進

一般廃棄物処理基本計画における家庭系ごみの資源化率を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
家庭系ごみ資源化率	39%	48%	49%

⑧ 町家、雁木など歴史的建造物を活かしたまちづくりの推進

景観形成地区に指定され、計画的な景観形成が図られている地区面積を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
景観形成地区指定面積	70.2ha	70.2ha	80.0ha

⑨文化財の保存及び活用の推進

市民対象のアンケートによる市の歴史的、文化的資源に関する認識度を指標とします。

指標項目	現状値	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市の歴史的、文化的資源に関する認識度	—	50%	75%

⑩ 雪を利活用した生活様式の提案

利雪・克雪につながる研究への取組状況を指標とします。

指標項目	現状値 (H19)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
雪に関する新技術・活用モデルの調査研究数	2件	2件	2件

(4) 一人一人が環境市民のまち【環境学習】

市が開催する環境に関する講座^{※1}の受講者数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
環境学習の参加者数 (累計)	(24,414人) ^{※2}	90,000人 (H20～H22の合計)	人口と同数 (H20～H26の合計)

※1 地球環境学校、環境情報センター、くわどり市民の森等における環境に関する講座

※2 平成18年度単年度の実績値

① 指導者の育成

環境学習指導者養成プログラムにより育成した指導者の人数を指標とします。

指標項目	現状値 (H17)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
環境学習の指導者数 (累計)	13人	27人	40人

② 学習機会の拡大

市が開催する環境に関する講座[※]の実施回数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
環境に関する講座の実施回数	864回	880回	900回

※ 地球環境学校、環境情報センター、くわどり市民の森等における環境に関する講座

③ 「上越市の環境」の市民への周知

市民対象のアンケート調査による「上越市の環境」の認知度を指標とします。

指標項目	現状値	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市民の「上越市の環境」の認知度	—	H20年度 [※] 値 から5%向上	H20年度 [※] 値 から10%向上

※ 平成20年度にアンケート調査を実施し現状を把握する

④ 環境情報の市民への提供

市民対象のアンケート調査による環境情報に関する満足度を指標とします。

指標項目	現状値	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市民の環境情報に関する満足度	—	H20年度*値 から5%向上	H20年度*値 から10%向上

※ 平成20年度にアンケート調査を実施し現状を把握する

⑤ 市民プロジェクトの推進

本計画の重点取組である市民プロジェクトの参加者数を指標とします。

指標項目	現状値	目標値 (H22)	目標値 (H24)
プロジェクトの参加者数 (累計)	—	150人	300人*

※ 平成24年度を目標年次としているため

⑥ 事業者との連携強化

事業所を対象とする市事業に参加している事業所数を指標とします。

指標項目	現状値 (H18)	目標値 (H22)	目標値 (H26)
市事業に参加している事業所数 (ISOクラブ、エコアクション 21認証取得支援プログラム、リサ イクル推進店、3Rオフィスクラ ブ)	270	330	400